

上島町消防だより

風水害対策 チエックポイント

台風や豪雨等は予測が困難とされている地震と違って、ある程度、予測することが出来ます。

しかし、近年、異常気象による突発的な豪雨等で発生する災害が全国各地で報告されています。

このような災害に対して、事前の準備や心構えを日頃から行うことが、被害を最小限に食い止めるポイントとなります。

上島町においても、大雨等に伴う、地滑りやがけ崩れの土砂災害発生が懸念されています。

地滑りとは…

- ・粘土質など滑りやすい土質を境にその上部の地面が動き、斜面の一部がゆっくりと滑り落ちる現象を言います。
- ・比較的傾斜が緩い斜面でも発生することがあり、広範囲に被害を及ぼすことがあります。

こんな時には要注意！

- ・地鳴りが聞こえませんか？
- ・井戸水が濁ったりしませんか？
- ・斜面から水が噴き出ていませんか？

がけ崩れとは…

- ・地面にしみこんだ大量の水分が、土の抵抗力を弱めて、急に斜面が崩れ落ちる現象を言います。



こんな時には要注意！

- ・斜面に亀裂が出来ていませんか？
- ・小石が落ちてきたりしませんか？
- ・湧き水等が急に増加したり減少したりするところがありませんか？

土砂災害への対策！

- ・災害の発生が予想される場合や、前兆に気付いたら早めに避難してください。
- ・土砂の流れは大変速く、土砂を背にして避難することは危険です。
- ・土砂の流れに注意し、流れに対し直角の方向に避難しましょう。
- ・各家庭に配布している防災マップをご覧ください、いざという時の避難場所や危険箇所を確認し防災グッズを用意するなど、日頃から災害に備えて準備をしておきましょう。

消防署を利用してください

「トレーニングルーム開放」

上島町消防庁舎が新築されたことにより、新たにトレーニングルームが整備されました。町民の皆さんにも日頃の運動不足の解消やダイエット効果のあるトレーニング機器を開放することになりました。



トレーニング機器

【利用者】

町内住民（高校生以上）※ただし、中学生でも、運動選手等でトレーニング機器を利用するにふさわしいと判断され、指導者もしくは保護者が付き添うことを条件に利用を許可します。

【使用料・申込み方法】

使用料は無料です。利用する場合は、消防本部受付（消防庁舎玄関左）にて利用申し込みしてください。利用後も同様に終了した旨を職員にお知らせください。

●「記入事項」

トレーニング室使用簿に使用年月日、利用者名、利用時間等を記入してください。

【利用時間】

午前10時～午後8時まで

トレーニング機器使用上の注意

使用例をよくご覧になり正しく利用し、自己責任のもと、安全に注意してください。消防職員は業務のため、指導できません。

トレーニング中の事故に対する責任は負えませんので各自で安全に配慮願います。また、16時～17時までの間は消防職員が優先して使用させていただきます。なお、飲酒等により使用機器や利用者に危害を及ぼす恐れがある方には、利用をお断りすることがあります。

平成19年の出動件数

	火災	救急
今年（3月）	1	43
昨年（3月）	0	32
昨 年 比	+1	-11
累 計	1	116

平成19年3月31日現在

火災と救急は119番
消防本部・署 77-4118(代)



農業講座

しまなみ農業だより エダマメの栽培ポイント

エダマメはダイズを野菜として利用するときの呼び名で、作物としてダイズと全く同じものです。最近ではエダマメ専用の品種が作られ、早く種をまいてもサヤがよく付く早生品種が多くなりました。エダマメにはビタミンB₁・ビタミンCを多く含み、これからの季節ビールのつまみにはうってつけの食材です。今回はエダマメの栽培ポイントについて解説します。

■栽培作型

エダマメ用品種は、早生と中生に分けられます。早く種まきをする時は早生、遅く種まきをする時は中生を使い分けします。

普通のダイズを6月にまいて、9月頃に青サヤで収穫すればエダマメとして利用もできます。

表 エダマメ露地栽培の作型

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	主要品種
平地		○	○	●	●	●					早生種 中生種

○ 種まき ■ 収穫

■畑の準備

エダマメはある程度のチッソ・りん酸・カリ成分が必要ですが、多すぎると茎や葉が繁茂してサヤ付が悪くなります。種まきの2週間前に苦土石灰を100m²当たり10kgを耕しておき、その1週間後に基肥として化成肥料（チッソ成分10%程度）を100m²当たり6kgを施用しよく耕しておきます。前作で肥料を多く使用した畑では肥料を減らします。

■種まき方法

エダマメは直接、畑にまきますが、発芽の時にハトの食害を受ける場所では箱や鉢で育苗してから畑に植え付けもできます。ただし、適期に植え付けをしないと生育が悪くなるので注意しましょう（図参照）。種まき間隔は、うね幅50cm、株間20cm間隔に2粒まき（育苗後の定植も同間隔）、1ヶ所に2本立ちさせて栽培します。



図 定植適期の苗の様子

■本畑の管理

株間の中耕と本葉が2枚の頃と4～5枚の頃に株元へ土寄せを行います。基肥中心の栽培のため、極端に生育が悪い場合を除き追肥は行いません。

■病害虫防除

発生しやすい病害虫は、カメムシ（マルカメムシ）とサヤに入る害虫の被害がめだちます。カメムシは、生育初期から茎に付くのでトレボン乳剤1000倍で防除します。また、サヤに入る害虫は開花期から幼サヤ期にトレボン乳剤1000倍、スミチオン乳剤1000倍などで1回～2回防除します。また、連作（同一ヶ所で栽培すること）は、豆類の中では連作もできますが、できれば避けるほうが無難です。

■収穫

エダマメは過熟になると味、香り、食感が悪くなるので、やや早取りの方がおいしく食べられます。サヤが膨らみつまむとマメが飛び出す頃が収穫適期となります。